

持続可能な開発のための教育（ESD）とは何かを
どのように伝えたら良いか

1. これまでの説明の例

(1) ユネスコ（ユネスコホームページより）

【 定義 】

- ESDとは、全ての人々が持続可能な未来の実現に必要な知識、技能、生活態度、価値観を身につけることができる教育・学習を意味します。ESDでは、気候変動や災害リスク軽減、生物多様性、貧困削減、持続可能な消費など、持続可能な開発を実現するにあたり人類が直面する主要な問題を授業や学習に取り込んでいます。

【 ESDが目指す能力 】

- 参加型の授業・学習の推進を通じて、学習者が持続可能な開発の実現に向けて、自らの習慣を積極的に振り返り、自発的に行動を変容していく力を形成します。その結果、ESDを通じて、批判的な思考で物事を考える力や未来の出来事を想定する能力、協力的に意思決定を行う資質の形成を促進することができます。

(2) ESD実施計画（関係省庁連絡会議）

【 定義 】

- 「一人ひとりが世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育」をいう。

【 目標 】

- すべての人が質の高い教育の恩恵を享受し、また、持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれ、環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるよう行動の変革をもたらすことであり、その結果として持続可能な社会への変革を実現すること。
- 世代間の公平、地域間の公平、男女間の平等、社会的寛容、貧困削減、環境の保全と回復、天然資源の保全、公正で平和な社会など多岐にわたる課題を、単にこれらについての知識を網羅的に得ることだけでなく、地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるよう個々人を育成し、意識と行動を変革すること。
- 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むという観点と、個々人が他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性の中で生きており、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むという観点が必要であり、その上で、公共に主体的に関わり、持続可能な社会づくりに参画する個人を育むことを目指す。

(3) 学校におけるESDに関する研究（国立教育政策研究所）

【 目標 】

- 教科等の学習活動を進める中で、「持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける」ことを通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う。

【 持続可能な社会づくりの構成概念（例） 】

- 持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだすためには、①多様性、②相互性、③有限性等の人を取り巻く環境に関する概念や、④公平性、⑤連携性、⑥責任性等の人の意思や行動に関する概念など、持続可能な社会づくりを捉える要素を明確にすることが必要。

【 ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例） 】

- ①批判的に考える力、②未来像を予測して計画を立てる力、③多面的、総合的に考える力、④コミュニケーションを行う力、⑤他者と協力する態度、⑥つながりを尊重する態度、⑦進んで参加する態度

(4) 上記以外のESDとは何かの説明事例

- ESDとは、健全な自然環境を土台に、人々の暮らしや経済活動、社会があることから、これらの環境・社会・経済を統合的かつ総合的に捉え、持続可能な社会の実現に向けて行動できる人を育てるということ。
- ESDとは、一人ひとりが社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、未来に向けて考え、学び話し合うことで、新たな価値観や持続可能な社会を創っていくことを目指す学習である。
- 何か環境のためにちょっとした行動を起こすだけでも、それはESDの始まり。

2. ESDとは何か

これまでの説明例も踏まえ、ESDが備えているポイントを整理した上で、ESDとは何かをわかりやすく伝えるため、その中から、①ESDの良さとは何か、②環境教育や学習の現場で、ESDについてどのように取り組んだらよいのかという2点を抽出し、説明していくことはできないか。

(1) ESDが備えているポイント・キーワード

（第1回懇談会で「ESDのよさ」として指摘された事項は下線で表示）

- 様々なステイクホルダーが関わっていること

- 家庭、学校、職場、地域その他のあらゆる場において実施されること
- つながりを大切にしていること
 - ・人 : 人と人、人と自然、人と社会のつながり。
 - ・分野 : 個々の分野だけでなく分野同士の関係を捉えた包括的なアプローチ
環境、社会、経済という柱に、統合的で均衡がとれ相対的に関係
 - ・時間 : 過去、現在、未来のつながり。
- 長期的視野を持っていること
 - ・ 10年先100年先も考えて最適な解を得る
 - ・ 「脅しの環境教育」ではなく、未来の夢が描ける
- 課題を解決するために必要な能力や態度を身に付けられること
- 気づきを行動につなげること (Think globally, act locally.)

(2) ESDの良さとは何か(案)

- 持続可能な社会づくりに向けて行動を起こすことの意義について、単なる知識としてではなく深い理解が得られ、自らの価値観の変容等とともに自然に行動が伴うようになる。
- 直面する様々な持続可能な社会づくりに関する課題の解決に向けた、実行力を身に付けることができる。
- 実行力を身に付けた者の活動の結果はもとより、ESDの過程で様々な者が対話を行うことにより、実際に、地域や地球の様々な課題の解決につながっていく。

(3) ESDにどのように取り組んでいけば良いのか(案)

- 環境に関する知識の習得や環境保全活動の実施も、ESD(持続可能な開発のための教育)の取組の第一歩であるが、さらに、ESDの良さを発揮していくためには、以下の要素を、教育・学習等の中にできる限り盛り込んでいくことが重要である。
 - ・ 個々の課題の解決のためには、有限な環境の下、相互のつながりや多様性を認識しつつ、環境の恵みを地域や世代をわたり公平に享受できるよう、将来のビジョンをもって、多様な主体が互いに連携・協力して課題に対し取り組む必要があること
 - ・ これらの課題を地球的視野で考えつつも自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるような人材の育成につながる